

全国 長南会 通信 76号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則

発行日 : 令和 07 年 04 月 10 日



鎌倉時代の長南氏

1. 上総広常没後の長南氏

上総広常は頼朝に対する忠義に疑念を抱かれて、寿永2年(1183年)12月肅清され所領が千葉氏に分配、千葉常胤が房総平氏の当主を継承した。とあるから千葉氏の配下に長南氏も組込まれる。

その後の千葉氏の経過

『元暦元年(1184年)には、源範頼軍に属して一ノ谷の戦いに参加、その後は豊後国(大分県)に渡り軍功を上げた。

文治3年(1187年)洛中警護のため上洛。文治5年(1190年)の奥州藤原氏討

伐のための奥州合戦に従軍して東海道方面の大將に任じられて活躍し、奥州各地に所領を得た。同年、頼朝が上洛した際、これまでの勲功として頼朝に御家人10人の成功推挙が与えられた時、その1人に入ったが孫の常秀に賞を譲っている。建久4年(1193年)には香取社造営雑掌を務め、後に千葉氏が香取社地頭として、社内への検断権を行使する権利を獲得するきっかけとなる。』千葉常胤 Wikipedia より

前回提出資料でも長南氏は義経の家臣として奥州には行ってないですが、今回千葉頼胤の文献から奥州藤原討伐のための奥州合戦に長南氏も従軍しているように思われます。

次郎久常 別名（次郎光重・・・源頼朝分限帳 五万石）

長南太郎重常

三郎常泰

七郎親常 別名（七郎忠春又は七郎忠清）

上総介・千葉介・三浦介の三介此処に住居す。故に三介谷と名づく是は拠所なし、古き記録等には三介とばかり有、谷の字は無し今は佐介谷・・・・・・新編鎌倉誌より

庁南殿、庁北殿について

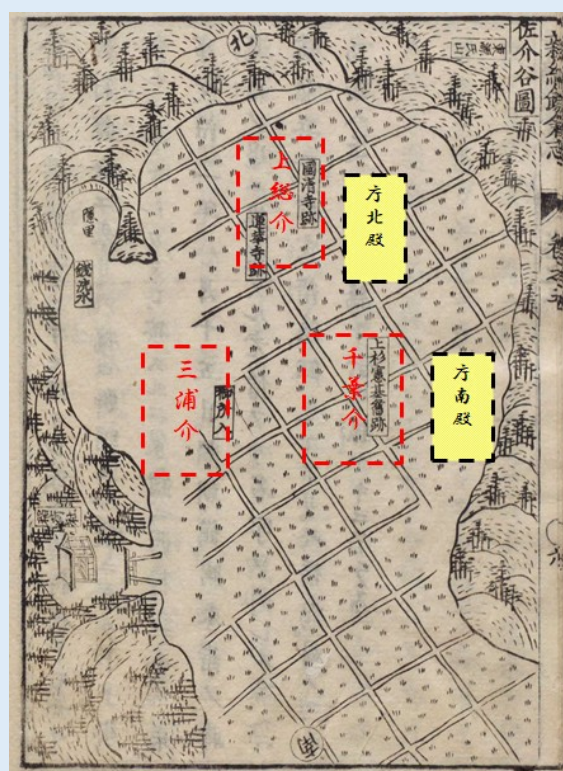
中村先生の長南氏の研究で鎌倉幕府初期時代に庁南殿庁北殿『鎌倉の南北二館』に住む長南七郎忠清（鎌倉武鑑による。禄高不明）というのがある。

この鎌倉の南北二館とはどこか、当然最初は上総介、広常・肅清後千葉介の配下にあった事よりその傍に住んでいたはずである。ここに鎌倉地理図に佐介谷がある。

仮に佐介谷の北側に上総介、南側に千葉介の配置と考えた時その傍に庁北殿、庁南殿があったと想定できる。

『千葉屋敷は、天狗堂の東の^{はたけ}畠を云ふ。相^{ちばのすけつねたね}ひ傳ふ千葉介常胤が^{きゆうたく}舊宅なりと。東鑑に、阿^{あせいぼうあんねん}静房安念、司馬の^{あまなほ}甘繩の家に向ふと云は是なり。司馬とは、千葉の^{なりたね}成胤を云なり。成胤は、常胤が嫡孫にて、胤^{なりまさ}正が子なり。』

現在 〒248-0017 神奈川県鎌倉市佐助付近に位置する。



近くに行かれた時はちょっと足を運んで、当時の鎌倉幕府に忠誠を誓い活躍した強者を偲んで思いを馳せるのも如何でしょうか。

（三重県 江南 正）

寒風沢島長南和泉守墓について



五輪の塔

長南和泉守の墓は、2007 年修復され、寒風沢島の共同墓地に建立された。2011 年東日本震災の際の津波で被災し、一部修復して現在に至る。潮陽館の長南昭子さんが墓を守っているが、島民の減少、島民の高齢化とともに、ご本人もお一人で墓の管理をするのが困難になっている状況だ。

昨年 9 月に、塩釜市の復興の活動をされている、地域蒼生舎、田邊孝顕さん、濱田健司さん、そして松島の会社

代表で鈴木由美子（旧姓長南）さんから提案があり、お墓の管理を含め今後の活動について、ZOOMでの会議を行った。田邊さんはハワイから、濱田さんは神奈川県、鈴木さんは宮城県松島、秀則は茨城県青宿の自宅から、オンラインで繋がった。

田邊さん、濱田さんは仏教の立場から、瑞巖寺、松林寺住職と相談、鈴木さんは会社事業の関係で、島の健康



修復された和泉守の墓

ウォーキング等を通して寒風沢島を含む、浦戸諸島を盛り上げ、和泉守の関心を高める... 等話し合った。

結論はまだ出ていないが、今回の取り組みは今後につながることで信じていたい。

会員の皆様には今後の墓管理について名案があれば提案いただければと思う。



上左から田邊さん、鈴木さん、濱田さん、秀則 (ZOOM の画面)



田邊孝顕さん



濱田健司さん



鈴木由美子さん

年会費ありがとうございます。

2024/12/31 現在

氏名	住所	入金日	金額
長南 一男	北海道	2024/03/26	3,000
長南 正道	北海道	2024/03/22	3,000
長南 武次	北海道	2024/04/05	2,000
長南 進一	北海道	2024/05/01	2,000
長南 慎一	宮城県	2024/03/18	3,000
長南 竹雄	宮城県	2024/03/19	2,000
長南 恵	宮城県	2024/03/19	5,000
長南 良彦	宮城県	2024/03/21	2,000
長南 政直	宮城県	2024/03/22	3,000
長南 征二	宮城県	2024/03/22	3,000
鈴木 由美子	宮城県	2024/03/26	3,000
長南 成	山形県	2024/03/21	5,000
長南 力	山形県	2024/03/21	2,000
長南 厚	山形県	2024/03/22	2,000
長南 儀一	山形県	2024/03/22	2,000
長南 光	山形県	2024/04/02	2,000
長南 利幸	山形県	2024/04/23	3,000
長南 賢一	山形県	2024/05/09	5,000
長南 勝幸	福島県	2024/03/21	2,000
長南 仁	福島県	2024/05/15	5,000
柳生 満美	茨城県	2024/03/23	2,000
長南 国男	茨城県	2024/03/19	3,000
長南 昇次	茨城県	2024/03/22	2,000
長南 明夫	茨城県	2024/03/25	2,000
長南 全隆	茨城県	2024/04/05	12,000
長南 清	茨城県	2024/04/20	2,000
飯村 一哉	茨城県	2024/04/20	5,000
長南 秀則	茨城県	2024/05/10	10,000

氏名	住所	入金日	金額
長南 照光	茨城県	2024/05/14	12,000
長南 覚	埼玉県	2024/03/21	2,000
長南 仁志	埼玉県	2024/03/21	10,000
長南 亘	埼玉県	2024/04/01	2,000
長南 新一	埼玉県	2024/04/01	4,000
長南 宏治	埼玉県	2024/04/11	2,000
石井 敏夫	千葉県	2024/03/19	3,000
長南 隆	千葉県	2024/03/22	3,000
近藤 忠行	千葉県	2024/03/21	2,000
長南 誠一	千葉県	2024/03/25	2,000
長南 克夫	千葉県	2024/08/31	2,000
長南 弘美	東京都	2024/03/21	4,000
長南 充浩	東京都	2024/04/04	2,000
長南 昌幸	東京都	2024/04/10	2,000
長南 晴章	東京都	2024/04/17	2,000
長南 章彦	東京都	2024/04/30	2,000
長南 誠悦	神奈川県	2024/03/19	2,000
坂上 美智代	神奈川県	2024/03/22	2,000
長南 照雄	神奈川県	2024/03/21	10,000
長南 一夫	神奈川県	2024/03/28	2,000
長南 恒弘	神奈川県	2024/04/23	2,000
長南 守	静岡県	2024/04/16	10,000
白井 ヒサエ	愛知県	2024/03/21	2,000
長南 鉦一	滋賀県	2024/03/29	2,000
長南 喜善	京都府	2024/04/02	2,000
長南 忠直	奈良県	2024/03/21	2,000
合 計			189,000



決算報告

2024/01/01 ~ 2024/12/31

摘要	収入	支出
会費	189,000	
雑収入	2	
和泉守墓管理費		60,000
長南会通信印刷代		14,739
長南会通信発送代		10,634
荷造り運賃		1,080
通信費		2,406
接待交際費		25,170
事務用品費		75,722
雑費		6,290
合計	189,002	196,041

現金	70,795
普通預金	493,412
当座預金	15,022
残高	579,229

前期繰越	586,268
収入	189,002
支出	196,041
残高	579,229



令和7年度 年会費納入のお願い

振替用紙を同封しますので、年会費1口2,000円をお振り込みください。
郵便局のキャッシュカードをお持ちの方は、振替用紙を使用しないでATMから次の口座にお振り込みください。

全国長南会 記号 10650 番号 13085711

ATMからだと、手数料（会負担）が無料になります。

全国長南会の運営のため、ご協力お願いします。



ひらひらと桜一片蝶の舞
いつか来ていつ歩いても春の暮
庭先の椅子にもたれて春の月
春の川大風揚げの人の波

長南俊春

神葬祭と 神道における死生観

「神道でも葬儀を行うのですか？」よくある質問ですが、今章では、我が国固有の死生観とそれに基づく神葬祭について説明・解説をしていきたいと思います。我が国固有の葬法は、もともと「神道」、あるいは「神道」を基とした葬儀の形をとっていました。しかし、仏教伝来以降急速に仏式葬儀が普及したため、あまり「神式」は見られなくなってしまったのです。今でも場所によっては、仏僧の関与にも関わらず、枕飯・北枕・葬列の松明・埋葬後のお祓いなど、慣習の中に神道が溶け込んでいる例も沢山あります。また、「神葬祭」は全国各地で連綿と続いている神道の儀式なのです。

「神道」の葬儀の初見については、神話の中に「天若日子」の葬儀の様子が比較的詳しくみえます。「神葬祭」はこのような日本古来の伝統を背景に江戸時代に復活してきますが、やがて信教の自由に伴い「葬祭」は個人の信仰にまかせるということになり今日に至っております。神道では死ぬことを「^{きゆう}帰幽」といいます。元来私たち日本人は「^あ生死は神々のはからい」と考えていたのです。日の本に生れい^あでにし^{ますびと}益人は神より出でて神に入るなりと、江戸時代に詠まれているとおり、【神タマ（霊・魂）が人に宿りて命を戴き、神タマが離れると死に至るということになる。】つまり、もともと人の生命は神様から与えられたもので、この神タマが幽界に帰るという（^あ帰幽）考え方なのです。仏教では、人が死ぬと「^{かいみよう}戒名」といって、お坊さんに仏の世界の新しい名前を付けてもらいますが、神道では生前の名前に男は「^{みこと}命」。既婚の女性には「^{とじのみこと}刀自命」。未婚の女性

には「^{ひめのみこと}姫命」などを付けます。つまり、生まれたときに「^{いのち}命」に名付けをし、...「^{めいめい}命名」亡くなって「命」を付け神様にお返しするのです。」これは、この世とあの世とはつながっていると考えているからなのです。死者の世界は、私たちの生活の場の近くにあると常に交流があり、私たちを見守ってくれているものと信じているのが「神道」の考え方です。

神葬祭では、大きく分けて「^{つや さい}通夜祭」「^{そうじようさい}葬場祭」「^{か そうさい}火葬祭」という順序で行われ、その後、「^{まいそうさい}埋葬祭・納骨」という流れで、一年祭・三年祭・五年祭と続きます。神葬祭で注意すべきなのは、拝礼の作法にあります。二拝・二拍手・一拝の作法は神様と同様ですが、拍手は^{しのびて}忍手といって音を立てないようにします。日本固有の神道は「祖先信仰」の要素を非常に強くもつものです。言葉の中にも「先祖代々」「子々孫々」という語句がよく出てくるのも日本の特徴でしょう。現在でも「神葬祭」は全国各地で行われています。もちろん当社でも行っております。日本の伝統文化の一つですから、大切に「形」と「心」を守っていきたいと思っております。



干支について

あなたは今年何才？・・と尋ねられて間違える人がいたとしても、あなたの干支は？・・と聞かれて間違える人はまずいないでしょう。このように私たち日本人は特に「干支」には敏感に反応できるのです。

「干支」は生まれたときに決定し、生涯変わらぬものとして記憶にとどまるものだからなのです。正確には「^{じゅうかん}十干」と

「^{じゅうにし}十二支」と別々に意味付けられているものが「^{じゅうかん}十干・^{じゅうにし}十二支」となり、これが省略

されて「^{えと}干支」と呼ぶようになりました。おおよその人はその「十二支」の方におもきを置いているようです。もともと「十二支は、中国から伝わったもの」ということ知っていても、我が国以外にタイ・ベトナム・モンゴルにも「十二支」があるのをご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

また、日本でいう「^{い いのしし}亥は猪」ですが、タイでは「亥→猪」の代わりに「^{ぶた}豚」、^う「卯→^{うさぎ}兎」の代わりに「^{ねこ}猫」となります。ベトナムでは「^{うし}牛が^{すいぎゅう}水牛」、モンゴルでは「^{とら}虎が^{ひょう}豹」になるなど、その国おなじみの動物に当てはめるように変化していることもとても興味深いところです。

ここでは皆様方がそれぞれの年をすばらしい一年にするために、どのような気持ち過ごせばいいのか、また、「家族」や「社会」「日本」の将来をどのように考えたらいいのかを「十二支」の神髄に触れながら解いていきたいと思うのです。

「十二」という単位は、東洋・西洋を問わず、世界中に統一された一定の単位であります。詳しくは紙面の都合で省略いたしますが簡単な例を挙げますと「一年は十二ヶ月」「十二時間の午前・午後」「一ダースは十二個」などなど、枚挙にいとまがありません。こうして見てみますと「十二」という数字にはとても深い意味があるように思えてなりません。つまり、「十二支」はただ単に「十二の動物たち」というだけ

ではなさそうなのです。私は子・丑・寅…の中に一定の、しかも何か関連したリズムを感じたのです。そして色々な方向から見ているうちに、これには広大な宇宙の神秘や、人間の誕生、更には人間が上手に生きてゆく教えが隠されていることに気付きました。

「巳年」について



「^み巳」は、時刻で言うとなん前十時頃に当たります。十二支の動物では「^{へび}蛇」が当てはめられています。「蛇」は世界中の至るところで生息しているため、これにまつわる話しも枚挙にいとまがありません。しかし、その大凡は日本と同じように「不気味なもの」「執念深いもの」とされていて、「蛇」といたしましてもとても不本意な形容がおおいようです。一方、「縁の下に白い蛇を見つけると家内安全の家となる!」「白い蛇の夢を見ると…お金が舞い込んでくる!とか、また、歴史的に見て、古代エジプト第十八王朝十二代目の王ツタンカーメンの黄金の覆面には「蛇」が飾られているように…神やその使いとされる「神霊的な動物」として扱われるところもあるようです。

「^み巳」「^{おのれ}己」は意味は異なりますが、「曲がった物の象形文字」ですから、同義と考えることができます。「走」を付けると「起」という文字になりますね。「起きる」というのは、「目を覚ます」「身をおこす」「もちあがる」という意味があります。ここで、その「起きる」を植物の成長に照らして見

ると…芽が上の中から外に出て、より多くの陽の光を浴びて、元気良くグングン伸びていく様なのです。

今までひたむきに頑張ってきた仕事、実績を信じて前向きに行動することにより、

回りの人々からより多くの援助や協力を得て、眠っていた様々な能力を「目覚めさせる」年になることを暗示しているように思えます。

『吉兆』 横尾忠則作

全体から受ける印象は、神社という概念から逸脱することなく、日本と世界。宇宙と地球。過去と未来。時間と空間。天と地。正と邪。月と太陽。聖と俗。かみとひと。等々「対象の均衡」ともいえるバランスの妙が、わずかな空間に堂々と描かれているように見えるのは、私だけではないと思えるが。横尾氏は言う。「人それぞれの感性で見て欲しい。私の作品に説明はいらない。」・・・と。

宮司敬白



鎮守氷川神社第 36 世宮司

すずきくにふさ
鈴木邦房

埼玉県川口市青木 5-18-48

日本の将来を見据え、故高円宮殿下を始め、日本を代表する芸術家・文化人（横尾忠則・安藤忠雄・さだまさし等々）との対談する機会を得て「不易流行」の基本を学ぶ。ラジオの生番組で「日本文化の安泰と世界平和」の祝詞を奏上。さらに各方面での講演会を展開する。

國學院大學文学部神道学科 86 期卒業

※「不易流行」 いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。

